

佛書解說大辭典

大東出版社藏版



ISBN4-500-00288-X

昭和8年8月20日 初版発行
昭和39年5月1日 改訂発行
昭和56年6月20日 重版発行

仏書解説大辞典 第五卷
¥8000

版權
所有

編纂者 小 野 玄 妙
発行者 岩 野 真 雄
印刷者 村 雲 二 郎

発行所 株式会社 大東出版社

東京都文京区白山1丁目37番10号
電話 (816) 7607

印刷所 株式会社 平 文 社

4384

ISBN4-500-00293-6 C3515 ¥8000E

本書編纂要解

一、本書は佛教に關する刊行物を東西兩洋に亘り、その大は一切經に收むる數千の經論より、その小は市井に埋もるゝ一論一文の小冊子に至るまで、これを擧ぐるは勿論、遠く散逸してその影を止めざるもの、或は貴重なる寫本の類に至るまで一切の典籍を收め盡し、これに現代最新の配列法（書名の首字を所謂五十音順音引假名遣に配列）により一々に内容解説を施し、且つその所在を明示したものである。

二、本書は邦語漢語佛教典籍（昭和七年十月卅一日刊行の分迄）の全部六萬五千五百餘を收む。即ち各種藏經より約八千、佛教全書、佛教大系等一般佛教叢書並に各宗關係の全書全集類約七千、各大學圖書館（京大、龍大、谷大、京專、高野山、正大、駒大、立正、東洋等）並に宮内省圖書寮、內閣文庫、帝國圖書館其他一般圖書館所藏のもの約十萬、東域傳燈目錄、諸宗章疏錄、八家請來目錄、眞宗教典志、扶桑禪林書目、其他諸目錄より約二萬の古逸註疏書目、出三藏記、歷代三寶紀等より僞經、抄經、闕本、失譯經の書目約一萬五千を涉獵し、以上全部の書目カード中の同一書を整理して六萬五千五百餘部の佛教典籍を採録した。

一、本書は以上六萬五千五百餘部の典籍を便宜上五類に分類した。即ち「第一類、藏經」「第二類、全書」「第三類、單行本の古寫本、古刊本」「第四類、現在の單行本」「第五類、古逸書類」の五類であつて、其内容解説にあつては、六萬有餘全部に亘り詳細なる解説をなすことは到底紙數上よりも許されぬ事であり、且つ其の必要を認めぬ點もあるので、大體詳細解説するものとせざるものとに分ち、前記五類中の第一、二類即ち藏經、全書類を主とし、これに他の類本にして重要と認むるものに限り出来る丈内容そのものについて詳細な

る解説を施した。

一、本書の内容解説の形體はその要點を次の十項目とした。即ち、①題名、書名、具名略名異名併記。②巻數。③存、缺。④著者又は譯者、生存年代を併記。⑤著作年代又は譯出年代。⑥内容解説。⑦末書（注釋書參考書）。⑧寫刊の年月。⑨現所藏者、圖書館書庫名。⑩發行所名。の十項目である。この十項中前記第一、二類は⑧⑨を省略し、第三類は特に⑨の圖書館の函號を詳記し、披覽者に備へ、第四類は⑩の發行所名を記して入手に便益あらしめ、第五類は⑦の注釋書參考書に力を入れて研究に有利ならしめた。この方針に依れるを以て藏經の經律論、各宗の宗典類は悉く詳細なる解説が⑥に於いて執筆され、且つその解説に責任をもつべく夫々執筆者の署名を附記した。

一、本書の解説に於ける十項目の内容について一定の方針を示せば左の通りである。

①、題名にはすべて具名、略名、異名をつけた。且つ日本音、支那音の讀方、梵語名、西藏語名、巴利語名を附記した。

日・支・梵・藏・巴とあるがそれである。而して日本音の讀方はすべて羅馬字法を採用し、一字一字の間に接尾符（—）を附し、全體としては音便讀法を用ひ、促音其他の用法は便宜上大藏經南條目錄補正索引（昭和五年刊）に従つた。支那音はすべて現在の北京官話の正しい發音に依り、支那音を羅馬字に移す場合學者によつて相異なる點ありと雖も、本書は最も普通に廣く行はれてゐるトーマス・ウキード氏の式に従つた。大正一切經刊行會版の昭和法寶總目錄では佛蘭西語法を用ひたが、本書は右により英語法に依つて羅馬字化した。梵藏兩語名の記入は主として西藏甘殊爾勘同目錄（大谷大學圖書館昭和六年刊）により、巴利語名の記入は漢巴四部四阿含互照錄（赤沼日錄—昭和四年刊）に従ふことにした。

②、卷數は其典籍の卷數を記したが、丁卷の異なる場合あるものは一々これを附記した。

③、存缺に就ては、存は現在行はれてゐる藏經の種類別所收卷數、全書類は其所載卷數を記した。而して各種藏經及び目錄

には左の如く略符號を使用した。茲に出てくる數字番號は本書の「佛教典籍總論」並に「昭和法寶總目錄」と連絡をとり研究に資することにした。

大正——大正新修大藏經。縮——縮刷大藏經。卍——卍字藏經。卍續——續藏經。北——北宋版。南——南宋版。元——元版。明北——明北藏。清——清藏。麗——高麗版。天——天海版。指——指要錄。法——法寶標目。至——至元法寶勘同總錄。明南——明南藏。〽——南條目錄。出三藏記——出三藏記集。三寶紀——歷代三寶紀。法經錄——衆經目錄（法經等撰）。仁壽錄——衆經目錄（彥悰撰）。靜泰錄——衆經目錄（靜泰撰）。內典錄——大唐內典錄。譯經圖紀——古今譯經圖紀。武周錄——大周刊定衆經目錄。開元錄——開元釋教錄。貞元錄——貞元新定釋教目錄。佛全——大日本佛教全書。真全——真宗全書。真大——真宗大系。日藏——日本大藏經。

④、著者又は譯者は其人の生存年代を出来る丈精査して各種の史傳、目錄、年鑑、年表、系譜等により現存せるあらゆる參考資料を涉獵して正確を期した。但し傳記は人名辭書に譲るべき性質のものであるから特にこれを省略した。年代はすべて西暦を用ひ、年號は其の人物の生死國により、其國の年號をとり、一國に生れ他國に死したものは何れかの一國の年號を用ひた。年代中——線を用ひ、「年代——年代」なるは生死年を、「年代——」は生年、「——年代」は寂年のみ明らかなるもの、又兩者不明にて生存中の或る時期明白なるものは「——年代——」として記入した。年時帝世等すべて明らかならざるも、略々其時代を推定し得らるゝものは其推定年代に「？」の符號を用ひた。僧傳並に資料中生年を明記せざるも寂年享壽の判明してゐるものはその逆算により概ねこれを記入した。生死年代に諸説あるものは其中の一を採用若しくは一説として別出したものがある。

⑤、著作年代は著作若しくは譯出の年號を記入した。

⑥、内容解説は前述の如く主として第一・二類につき冗長繁文を避けて、名義・大綱・分科・判釋・傳通の範圍に於て詳記した。原典翻譯に關する歴史的説明譯出者の傳記等はこれを省略した。略名、異名を有するものは大藏經、全書類に標題とされ

た題名の箇所にて説明した。例へばクの部「俱舍論」ではその題下に具名「阿毗達磨俱舍論」と記し、詳細なる解説はアの部「阿毗達磨俱舍論」に於てなしたるが如し。

⑦、注釋書參考書は典據を出来る丈詳細に調査して列記し、大體製作の年代順に従つて列舉した。

⑧、寫刊の年月、寫とあるは寫本、刊とあるは刊本のことにして、その出來の年代である。

⑨、現所藏者、圖書館書庫名は個人所藏のものは何某藏とし、圖書館所藏のものは其館名並に其館に於ける書目の兩號を記入した。館名の略符は左の通りである。

谷大——京都大谷大學圖書館。龍大——京都龍谷大學圖書館。京大——京都帝國大學圖書館。正大——東京大正大學圖書館。駒大——東京駒澤大學圖書館。立大——東京立正大學圖書館。高大——紀州高野山大學圖書館。京專——京都（東寺）專門學校圖書館。哲——哲學堂圖書館。帝國——東京上野圖書館。內閣——內閣文庫。帝室——宮內省圖書寮。寶龜院——高野山寶龜院所藏。金剛三昧院——高野山金剛三昧院所藏。寶壽院——高野山寶壽院所藏。寶菩提院——京都寶菩提院所藏。

而して略符の下の數字等は何れも其所藏圖書館に於ける書架番號である。而して藏經、全書、叢書類は一般に現行されてゐるから所藏者（書庫）、發行所名は概ねこれを記入しないことにした。

シ

斥異辨 ①(日)Shaku-i-bon. ②二卷

③存 ④教乘 ⑤寫本(龍大、一七六・九)

斥邪二筆 ①(日)Shaku-ja-ni-hisu.

②一卷 ③存 ④超然 ⑤慶應二刊 ⑥

(龍大、一六五・七八・一九)

斥邪篇 ①(日)Shaku-ja-hen. ②一卷

③存 ④性寂、吐月共著 ⑤寫本(龍大、一

六九・九)

斥邪漫筆 ①(日)Shaku-ja-man-pi-

tsu. ②一卷 ③存 ④超然 ⑤慶應元刊

⑥(龍大、一六五・一〇・二八・四・二〇)

斥釋教正謬 ①(日)Shaku-shak-

kyo-shu-myū. ②一卷 ③存 ④三眼居士

⑤寫本(龍大、二八・一四・一八)

斥謬 ①(日)Shaku-myū (支)Chih-

myū. ②一卷 ③存、正續二・八・五 ④宋

代善嘉撰

⑤この書は、華嚴宗學内に於ける若干の、

著者の當時、一般に論議されたとするは、

問題に關する、誤謬の見解に對し、修正を

試みる小冊子。其の中特に、圓覺經の學

說、その華嚴學の體系内に於ける地位等に

關する問題が主要の地位を占め、其の他之

を關係的に、諸問題が取扱はれてはゐる

が、其の研究は、學者には、單に常識的な

程度に止まり、又、著者の立場は五師祖述

の將外に出でず、何等新奇を衒ふなく、從

てこれは、華嚴學發達史の上には必ずしも

重要な存在ではないかと思はれる。

①(京大、藏・一〇ケ・三) (櫻井善晃)

斥耶蘇 ①(日)Shaku-yā-so. ②一卷

③存 ④阿滿得聞 ⑤元治元、文久二刊

⑥(龍大、二八・一四・二一・一六五・二二)

斥耶略說 ①(日)Shaku-yā-yūka-

satsu. ②一卷 ③存 ④水原宏遠 ⑤寫

本(龍大、一六五・一三)

石記 ①(日)Shaku-ki. ④淳祐記 ⑦

(參考) 本朝台祖撰述密部書目

折疑論 ①(日)Shaku-gi-ron. (支)

She-tun. ②五卷 ③存、大正五・二・七九

四No. 2118、縮録一 ④子成撰、師子比

述註 ⑤元至正一(A.D. 1351)

⑥本論は子成が兵火の亂を終南山の石室に

匿れて嘗て來客と三教の優劣に就いて問難

詰折した事柄を録した上に更に隨文解釋し

たもので五卷二十篇から成つてゐる。第一

叙問篇は周孔黃老と佛教との經典を比較し

て佛經を其の極致となし、第二聖生篇は釋

尊の傳記と其の教理とを略説し、第三問佛

篇は佛の十號と三身とを説き、第四論舉篇

は儒典は五十萬言に盡きるも佛經の卷は萬

を以つて計へ言は億を以つて數へ繁にして

要ならざるは前は億劫の事を説き後は萬世

の要を言へるが爲めであるとし、第五宗師

篇は古今の帝王賢哲が皆佛教を宗師とした

ことを述べ、第六通相篇は佛が三十二相八

十種好を具するは三皇五帝孔老等が異常の

相狀を有したるに同じとし、第七論孝篇は

孝教に四事を以て毀たずと言ひ、論語に三

事を以て違ふ事なしと言ふに、沙門が剃髮

出家するは不孝に非やといふも、これ超世

の大孝を全ふする所以であるとし、第八拒

毀篇は福は繼嗣に過ぎたるなく、不幸は後

嗣無きに過ぎたるなし、と言ふに今沙門が

妻子貨財を棄つるは福幸の行に違ふに非ず

やといふも、これ妻子貨財は愛念情慾を幸

いて益なく、澄鑑清淨は至道の妙なれば、其

の無益を捨つるなりとし、第九評議篇は儒

には服飾を貴ぶに今の沙門が鬚髮を剃り細

袍を著、外に跪起の儀無く内に溫恭の禮を

絶つは、先王の制に違ふに非ずやといふも、

これ道德禮樂は人の所爲にありて章甫冠冕

の致すところに非ず、故に無爲の道を用ひ

て天下を利し禮節に拘らずとし、第十舉問

篇は孔子は鬼神生死を語らざるに今傳教が

生死往來の事鬼神報應の徴を説くは人心を

亂すものにあらざやといふも、これ孔子は

其の髮髯を言ひ佛教は其の幽微を剖るもの

なりとし、第十一解域篇は孔子は夷狄の君

あるは諸夏の亡きに如かずと言ひ、孟子は

吾れ夏を以つて夷を變ずるを聞くも未だ夷

に變ずるを聞かずと言ふに、今西域の神た

る佛の言を學ぶは聖言に反するにあらざや

といふも、これ禮樂の華を知りて道德の實

に聞く、燭火の照を窺ふて日月の明を視ざ

るものなりとし、第十二釋謗篇は今沙門が

酒漿を耽嗜し貨殖を營易するは犯戒にあら

ざやといふも、これ聖人は人に戒律を授く

るも人を驅してこれを履行せしむること能

ざとし、第十三辯施篇は布施を説いて因果

を明かし、第十四殊見篇は佛教は其旨趣幽

深にして用ひ難く信じ難きを以つて謗毀す

るものありといふも、これ至味は衆口に調

ひ難く、大音は群耳に合はず、俗の知ると

ころにあらざとし、第十五隨宜篇は問者が

儒教に通ずるを以つて、佛教を説くに六經

諸子を引いてゐることを述べ、第十六優劣

篇は王喬蕭史の二仙と摩騰法蘭の二僧との

道の優劣を論じて二仙を下凡とし二僧を小

聖とし、第十七先知篇は漢夢以前西域に佛

陀の生存せし事を知るべき五箇條を挙げ、

第十八尊釋篇は老子も印度に釋尊の存せし

ことを知りし證據として老子西昇經、古道

元皇歷、道士法輪經、靈寶消魂安誌經、金

闕朝元經等の偽經を挙げ、第十九言符篇は

三教聖人は時代國土不同なるも其の教化機

縁は一理にして而も孔老二子は戰國縱橫の

時大器無きを以つて世外玄妙の典を言はず

とし、第二十舍名篇は三教聖人の靈迹説を

述べてゐる。

斯様に本論は三教の優劣を論じたもので

あるが、併しながら本論の組織内容が全く

後漢牟子作の理惑論に契同してゐるところ

から察して、恐らくは子成と來客との問答

に非ずして、實は理惑論に對する質疑を折

伏して而もこれを註釋したものと観ねばな

らぬ。殊に第十五隨宜篇と第二十舍名篇と

に牟子の名を出してゐるところから觀て尙

ほ其の感を深くするものがある。今其の兩

者を對比すれば、第二聖生篇は牟子の第一

條、第三問佛篇は牟子の第二條、第四論舉

篇は第五條、第五宗師篇は第七條、第六通

相篇は第八條、第七論孝篇は第九條、第八

拒毀篇は第十條、第九評議篇は第十一條、

折、杓、赤、昔、研、折、迹、據、緯、積、錫

- 第十二條、第十學問篇は第十三條、第十四條、第十一解城篇は第十五條、第十二釋誘篇は第十七條、第十三辯施篇は第十六條、第十八條、第十四殊見篇は第二十四條、第十五隨宜篇は第二十六條、第十六優劣篇は牟子の第二十九條を説明してあるものである。而も今第十七先知篇から第二十會名篇までの三教聖人に關する部分を増益してゐるのは西晉以後問題となつた論題を取り入れてゐるもので茲に本論の特色がある。
- ①寫本(京大、一・二四七・大別、藏・二四七・七)(内閣) (久保田量遠)
- 折解惑** ①(日) Shaku-go-waku. ②二卷 ③存 ④瀧谷塔師講、岩部茂蘭記 ⑤城照山藏版(立大、A〇五・一四四)刊本(谷大、餘大・二〇四五)(立大、A〇五・一四三)
- 折邪顯正** ①(日) Shaku-jia-ken-sho. ②一卷 ③存 ④日相撰 ⑤寫本(京大、日大未五七一・一五七二)大正一五寫(立大、D〇・一三三)
- 折中記** ①(日) Shaku-chū-ki. ②一卷 ③存 ④通玄 ⑤寫本(龍大)
- 折刀經** ①(日) Shaku-tō-gyō. (支) Shie-tō-ching. ②一卷 ③疑偽經 ④(參考) 武周錄第一五、開元錄第一八、貞元錄第二八
- 折佛經** ①(日) Shaku-buk-kyō. (支) Shie-to-ching. ②一卷 ③缺 ④失譯 ⑤(參考) 出三藏記第三、法經錄第三、仁壽錄第五、靜泰錄第五、開元錄第一、第一五、貞元錄第二、第二五
- 折辨無得道論** ①(日) Shaku-ban-mu-to-ku-dō-ron. ②一卷 ③存 ④日散述 ⑤無得道論を破したるもの (立大、A一五・一五)
- 杓木編** ①(日) Shaku-boku-hen. ②千丈巖和尚語錄 ③三卷 ④存 ⑤貴廣千丈語、素謙良校共編 ⑥刊本(駒大)
- 赤嘆鳥經** ①(日) Shaku-shi-a-kyō. (支) Chih-tsu-i-wu-ching. ②一卷 ③失譯 ④(參考) 出三藏記第四
- 赤嘆鳥喻經** ①(日) Shaku-shi-a-yu-gyō. (支) Chih-tsu-i-wu-yu-ching. ②一卷 ③存 ④雜譬喻經の抄出 ⑤(參考) 仁壽錄第三、靜泰錄第三、開元錄第一六、貞元錄第二六
- 赤肉團大道和尚語錄** ①(日) Sha-ku-niku-dan-dai-dō-o-shō-go-toku. ②大道和尚語錄 ③二卷 ④存 ⑤一以大道了夢等編 ⑥(參考) 禪籍目錄
- 昔爲鹿王經** ①(日) Shaku-i-toku-gyō. (支) I-shi-wei-lu-wang-ching. ②一卷 ③出曜經第九卷の抄出 ④(參考) 法經錄第五、仁壽錄第三、靜泰錄第三、開元錄第一六、貞元錄第二六
- 昔有二人相愛教經** ①(日) Shaku-u-ni-nin-sō-ai-gyō-kyō. (支) Hsi-yu-erh-jen-hsing-ai-chiao-ching. ②一卷 ③失譯 ④出曜經第六卷の抄出 ⑤(參考) 出三藏記第四、法經錄第五、仁壽錄第三、靜泰錄第三、開元錄第一六、貞元錄第二六
- 昔圓開否記** ①(日) Shaku-en-kai-i-ki. ②一卷 ③存 ④日從撰 ⑤寫本(立大、D〇・一八八)
- 祈毒樹復生經** ①(日) Shaku-doku-jū-boku-shō-gyō. (支) Ché-tu-shu-fu-sheng-ching. ②祈毒樹更生經 ③一卷 ④失譯 ⑤出曜經第三卷の抄出 ⑥(參考) 出三藏記第四、法經錄第五、仁壽錄第三、靜泰錄第三、歷代三寶記第四、開元錄第一六、貞元錄第二六
- 析婆塞集** ①(日) Shaku-da-soku-sita. ②一卷 ③存 ④寫本(立大、D〇・三二四)
- 迹門義悟記** ①(日) Shaku-mon-gi-gō-ki. ②迹門義悟記 ③一卷 ④圓仁(延暦一三一)貞觀六A.D. 794—864)撰 ⑤(參考) 本朝台祖撰述密部書目、山家祖德撰述篇目集卷上
- 迹門絕待觀心決** ①(日) Shaku-mon-zet-tai-kwan-shin-keitsu. ②法華迹門觀心絕待妙釋 ③一卷 ④存、大日本佛教全書第二四 ⑤圓仁(延暦一三一)貞觀六A.D. 794—864)述 ⑥(參考) 山家祖德撰述篇目集卷上
- 撫華鈔** ①(日) Shaku-ke-shō. (支) Chih-hua-ch'iao. ②孟蘭盆經撫華鈔 ③二卷 ④缺 ⑤宋智圓(太平興國元—乾興元A.D. 976—1022)述 ⑥諸宗章疏錄第二〇曰「釋主峯蘭盆疏」云々 ⑦(參考) 新編諸宗教藏總錄第一
- 綽如上人讓狀寫** ①(日) Shaku-nyō-shō-nin-yuzuri-jō-utsushi. ②存 ③康應元鈔 ④(龍大別置)
- 積骨經** ①(日) Shaku-kotsu-gyō. (支) Chi-ku-ching. ②一卷 ③失譯 ④雜阿含經七處三觀經の抄出 ⑤(參考) 出三藏記第四、法經錄第四、三寶記第四、仁壽錄第三、靜泰錄第三、第四、內典錄第一、開元錄第一六、貞元錄第二六
- 積勳四念處經** ①(日) Shaku-gun-shi-nen-jō-kyō. (支) Chi-tsin-sā-nien-chu-ching. ②一卷 ③(參考) 靜泰錄第四
- 積柴燈篋渡護法之表白並祝章** ①(日) Shaku-sai-tō-kyō-to-go-hō-no-hyō-byaku-narabini-iwai-bunni. ②一卷 ③存、日本大藏經修驗道章疏第一
- 積塵編** ①(日) Shaku-jin-hen. ②一卷 ③存 ④寫本(哲、あ、じ、左、九)
- 積翠軒語錄** ①(日) Shaku-sai-ken-gō-roku. ②一卷 ③存 ④龍水口、松久禹門編 ⑤明治二八刊 ⑥(帝國一・一六八)
- 積善寺本堂建立奉加帳** ①(日) Shaku-zen-jō-hon-dō-ken-ryō-hō-guchō. ③存、土佐國群書類從第一五九
- 積木燒燃經** ①(日) Shaku-moku-shō-nen-gyō. (支) Chi-mu-shao-jian-ching. ②一卷 ③失譯 ④(參考) 出三藏記第四
- 錫杖聞書抄** ①(日) Shaku-jō-ki-igaki-shō. ②一卷 ③存 ④鎮增記 ⑤康正元(A.D. 1435) ⑥(正教藏)
- 錫杖經** ①(日) Shaku-jō-kyō. (支) Hsi-chang-ching. ②一卷 ③失譯 ④(參考) 法經錄第三、武周錄第一一
- 錫杖經出刊鈔** ①(日) Shaku-jō-kyō

shuk-kei-shō ②二卷 ③存 ④大藏文

化一四一明治九A.D. 1874—1876)述 ⑦

〔參考〕大日本佛教全書續刊豫定書目

錫杖鈔 ①(日)Shaku-jō-shō 九條錫

杖鈔 ②一卷 ③存、日本大藏經方等部章

疏第六 ④亮汰(元和八—延寶八A.D. 1692

—1698)述 ⑥九條錫杖鈔の下を見よ ⑨

刊本(哲、あ、二・中、一)正、一四二・六九

錫杖大事 ①(日)Shaku-jō-dai-ji

②一帖 ③存 ④天文一五寫 ⑤(寶善提

院)

錫杖博士付 ①(日)Shaku-jō-haku-

shi-tsuke ②一帖 ③存 ④徳川時代寫

⑤(寶龜院)

錫杖鉢等口決 ①(日)Shaku-jō-ha-

tsu-tō-ku-ketsu ②一軸 ③存 ④寶徳四

寫 ⑤(高、寄、一・六四)

錫類法檀 ①(日)Shaku-rui-hō-dan

(支)Hsi-tai-ja-tan ②十卷 ③存 ④清

代道公幹 ⑤寫本(京大、藏・二四・二七)

明版(内閣)

獺狗王經 ①(日)Shak-ku gechi-

ō-gyō (支)Shu-kou-nieh-wang-ching

獺狗經 ②一卷 ③缺 ④後漢代失譯

〔參考〕出三藏記第四、三寶紀第四、内典

錄第一、開元錄第一、第五、貞元錄第二、

第五

釋一座行法拔萃 ①(日)Shaku-i-

chi-za-gyō-bō-bus-sui ②一卷 ③存 ④

自性上人記 ⑤文政九寫 ⑥(寶善提院)

釋一座法 ①(日)Shaku-ichi-za hō

②七卷 ③存 ④自性上人記(觀流歟) ⑤

徳川時代寫 ⑤(寶龜院)

釋一切經玄義 ①(日)Shaku-issai-

kyō-gen-ji (支)Shih-t-chieh-ching-issai-

an-ji ②一卷 ③隋智顗(中大通三—開皇

一七A.D. 531—597)說 ④(參考)傳教大

師將來台州錄、諸宗章疏錄第一

釋憂婆提舍清立標目 ①(日)Shu-

ku-u-ba-dai-sha-shō-ryō-hyō-moku ②

一卷 ③存 ④寫本(京專)

釋雲照 ①(日)Shaku-un-shō ②三

卷 ③存 ④草整全宜著 ⑤大正三刊

(高、一・五五)(京專)(谷大)

釋雲照 ①(日)Shaku-un-shō ②一

卷 ③存 ④吉田敏雄著 ⑤明治三五刊

釋王寺事蹟 ①(日)Shaku-ō-ji-ji-

seki (支)Shih-wang-ssā-shih-chi ②一

卷 ③存 ④(參考)朝鮮佛教總書刊行豫

定書目

釋王寺本末寺法 ①(日)Shaku-ō-

ji-hom-matsu-ji-hō (支)Shih-wang-ssā-

pén-mo-ssā-fa ②一卷 ③存 ④金瓶河

記 ⑤大正元刊 ⑥(谷大、餘大・三六五二)

釋王宗錄 ①(日)Shaku-ō-shū-roku

(支)Shih-wang-tsung-lu 前齊沙門釋王

宗錄、王宗錄 ②二卷 ③缺 ④釋王宗編

⑤南齊武帝世(A.D. 483—493)

⑥具きには前齊沙門釋王宗錄と云ひ、又略

して單に王宗錄とも云はれて、南齊武帝の

時、沙門釋王宗の撰述に係るものである。

出三藏記集卷第五に「佛所制名數經五卷、

右一部齊武帝時、比丘釋王宗所撰、抄集衆

經有似數林、俱題稱佛制、懼亂名實、故注

于錄」とあるから、彼には佛所制名數經五

卷なる著述があつたことを知り得ると同時

に、其の下註の最後に「注于錄」と云ふの

は正しく本錄を指して云つてをるものである

。故に歷代三寶記卷第十一に「佛所制名

數經五卷、衆經目錄二卷、右二部合七卷、

武帝世、釋王宗抄集衆經中略又撰大小乘目

錄、並見三藏記」と云ひ、大唐内典錄、開元錄

乃至貞元錄等、爾後の諸經錄は何れも皆、

これと殆ど同一の説明をなしてをる。

〔參考〕出三藏記第五、三寶紀第一、

第五、内典錄第一〇、開元錄第一〇、貞

元錄第一八。

釋迦 ①(日)Shu-ka ②二卷 ③

存、大日本佛教全書第四五覺禪鈔之内 ④

覺禪(康治二—建曆二後A.D. 1143—1212

—撰

釋迦 ①(日)Shu-ka ②一卷 ③

存、大日本佛教全書第三六阿婆縛抄之内

④承澄(元久二—弘安五A.D. 1203—1282)

撰

釋迦 ①(日)Shu-ka ②一卷 ③

存、高山林次郎(—明治三五A.D. 1902)

著 ④刊本(谷大、外洋・一四〇)

釋迦 ①(日)Shu-ka ②一卷 ③

存、大屋徳城著 ④明治四二刊 ⑤(高

大、一・二一)(龍大、二九六・一)(谷大、餘

洋・三〇九)

釋迦一代記 ①(日)Shu-ka-ichi-dai

ji 實說釋迦一代記 ②一卷 ③存 ④

江部鴨村著 ⑤大正二刊 ⑥(谷大、餘洋・

三三二)

釋迦一代記 ①(日)Shu-ka-ichi-dai

ji 平易に説いた釋迦一代記 ②一卷 ③

存 ④河口慧海著 ⑤昭和四刊 (正大一、

〇三四・五四)

釋迦一代記鼓吹 ①(日)Shu-ka-ichi-

chi-dai-ki-ko-sui 三國因緣釋迦一代記鼓

吹 ②十卷 ③存 ④雲外編 ⑤元祿五刊

⑥(帝國、二一〇・一九九)

釋迦一代實錄 ①(日)Shu-ka-ichi-

dai-jitsu-roku ②二冊 ③存 ④寫本

(哲、五・五・三二)

釋迦一代傳記 ①(日)Shu-ka-ichi-

dai-den-ki ②一冊 ③存 ④了意著 ⑤

刊本(高、一・二二)

釋迦會不同 ①(日)Shu-ka-e-hu-dō

大秘台藏悲生萬荼羅第三重釋迦眷屬及諸天

印明種子梵號名位不同卷上 ②一卷或二卷

④安然(承和八—延喜年間A.D. 841—901

—撰 ⑤(參考)第二、本朝古祖撰述密部

書目、山家祖徳撰述篇目集卷上、密乘撰述

目錄諸宗章疏錄

釋迦應化略諺解 ①(日)Shu-ka-ō-

ge-ryaku gen-ge ②一卷 ③存 ④大冥

述 ⑤文化二刊 ⑥(谷大、餘大・一七〇

四)(龍大、二九六・一・三)(哲、四・中・一

四)(京大、一・二二・五)

釋迦儀軌 ①(日)Shu-ka-gi-ki (支)

Shih-chia-i-kuai 釋迦文尼佛金剛一乘修

行義軌法品、釋迦佛法 ②一卷 ③存、大

正一九・八六、938、縮余一、己綴一・三・一

④釋迦文尼佛金剛一乘修行儀軌法品の下を

見よ。②承曆二、康和五寫 ③(寶壽院)

釋迦華押 ①(日) Sha-ka-twa-o. 論
鍵考詳釋迦華押 ②一帖 ③存 ④享和元
寫(寶壽院)

釋迦御一代記 ①(日) Sha-ka-go-i-
chi-dai-ki. 給入釋迦御一代記 ②三卷 ③
存 ④(龍大、研史)

釋迦御一代記圖會 ①(日) Sha-ka-
go-i-dai-ki-zu-e. ②六卷 ③存、日
本歷史圖會第八 ④山田意齋記 ⑤刊本
(谷大、外洋・三三二)

釋迦講式 ①(日) Sha-ka-ka-shiki.
②一卷 ③存 ④行尊(天喜三—保延元 A.
D. 1055—1135)撰 ⑤(參考) 大日本佛教
全書續刊決定書目

釋迦降生釋種成佛緣譜第四

①(日) Sha-ka-gō-shō-shaku-shu-jō-butsu-
em-pu-dai-shi. (支) Shih-chia-chang-
sheng-shih-chung-ch'eng-fō-yuan-pu-ti-
ssai. ②一卷 ③存 雜傳略經之内 ④寫
本(京大、藏・一サ・一)

釋迦降生禮讚文

①(日) Sha-ka-ge-
shō-rui-san-mon. (支) Shih-chia-chang-
sheng-jī-tsan-wén. 釋迦如來降生禮讚文
②一卷 ③存、已續二二・三・一 ④宋仁岳
(淳化三—治平元 A.D. 992—1064)撰 ⑤
釋迦如來降生禮讚文の下を見よ。 ⑥刊本
(京大、藏・一ハシ・四)(谷大、余大・二二三)

釋迦三身印

①(日) Sha-ka-san-jin-
in. ②二卷 ③(參考) 本朝台祖撰述密
部書目

釋迦氏譜

①(日) Sha-ka-shi-fu. (支)

Shih-chia-shih-p'u. 釋氏略譜、釋迦氏略譜

②二卷或三卷 ③存、大正五〇・八四 No. 2041、
縮致一、二二・三、北1050仙、南1060仙、元
1063仙、明北1463壁、麗1056壁、天1050仙、指
1010線、法1037線、至1527綺、明南1459相
Nj. 1469 ④道宣(開皇一六—乾封二 A.D.
596—667)撰 ⑤唐麟德二(A.D. 665)

⑥大小乘の三藏に依て、釋迦牟尼佛に關
する事蹟を記述したもの。大意は齊代僧祐
の撰に係る釋迦譜と同じであるが、彼れが
あまり繁縟に過ぎるので、此れは結構を整
へ、文を簡略にして、後進に要領を得させ
ようとしたものである、卷首に自序を載せ、
本文には五科を挙げ、科によつては、更に
細目を分つてゐる。經典の外、問、僧祐の
評語をも引用してゐる。

五科とは一に所依賢劫を序し、二に氏族
根源を序し、三に所託方土を序し、四に法
王化相を序し、五に聖凡後胤を序するもの
これである。所依賢劫の科には、現在の劫
を賢劫と名け、最初の拘留孫佛から、最後
の樓至佛に至るまで、千佛が出世し、我等
の師なる釋迦牟尼佛はその第四佛なること
を述べてゐる。氏族根源の科には、佛の姓
氏、族源を明し、先づ劫初の大人王から、
第三十三代の善思王までを列挙し、更に善
思王の後を相續する十族の轉輪聖王、及び
佛七世の祖を列記してある。所託方土の科
には、徵名、約量、辯時、從勢、藉勝、考
文の六義を以て、佛出生の方處が中上なる
ことを定めてゐる。法王化相の科は正しく
佛傳と稱すべき一段であつて、處兜率天迹、

降闍浮洲迹、現生靈迹述、集藝舉能述、出
家津教迹、乘時成佛迹、轉法悟物迹、遷神
化迹述の八相を以て、佛一代の化迹を示し、
殊に降闍浮洲迹以下には更に諸種の相目を
掲げて、一一經典を引用してある。聖凡後
胤の科には、釋迦一族の僧俗につき、その
生死、出家、涅槃等を傳へ、次に釋迦族の
流滅、釋迦の遺跡、塔像、遺法の終限等を
記してゐる。引文の體例は前科に等しい。

この書は僅僅一卷の短篇を以て、整齊さ
れた結構の下に、手際よく釋迦一代始終の
概要を記述したものであるが、今日から
見れば、さほど力點を置かなくてもよいと
思はれる前の三科に於いては、撰者自身の
見解を以て、多少の論究を試みてあるにも
係らず、重要な後の二科に在つては、大率
經文の引用に止り、そこに撰者の自説の見
るべきものが鮮々。これは時代の關心が相
違つてゐるから、已むを得ぬものの、現今
の學徒に取つては遺憾の點である。又引用
の經文にその題名を闕くものが多いのは、
簡略を本位とした爲でもあらうが、出典の
檢案に不便を免れぬ。(名畑應順)

釋迦氏略譜

①(日) Sha-ka-shi-ryū-
ku-fu. (支) Shih-chia-shih-hao-p'u. 釋迦
氏譜、釋氏略譜 ②一卷 ③存、大正五〇・
八四 No. 2041、縮致一、二二・三、北1050
仙、南1060仙、元1063仙、明北1463壁、麗1056
壁、天1050仙、指1010線、法1037線、至1527
綺、明南1459相 Nj. 1469 ④道宣(開皇一
六—乾封二 A.D. 596—667)撰 ⑤唐麟德
二(A.D. 665) ⑥(參考) 奈良朝現在一切

經疏目錄3800

釋迦史傳

①(日) Sha-ka-shi-den.
②一卷 ③存 ④常盤大定、吉田賢龍、近
角常觀共著 ⑤明治三七、同四一再刊 ⑥(龍
大、二九六一・六)(谷大、餘洋・二二二)(帝
國・七九・四一六)(京大、一・二二・三四)

釋迦實傳記

①(日) Sha-ka-jitsu-
ten-ki. ②二卷 ③存 ④伊藤俊道著 ⑤
明治三五刊(龍大、二九六一・四)(帝國・三
一・八・五三)大正四刊(立大、B一六・九) ⑥東
京森江書店

釋迦種族系統

①(日) Sha-ka-shu-
zoku-kei-to. ②一卷 ③存、慈雲尊者全集
第一六 ④皓月尼(寶曆六—天保四 A.D.
1756—1833)撰、飲光(享保三—文化元 A.
D. 1718—1804)註

⑤有部破僧事第一の文を和譯したるを四分
律、起世經等によりて註したものである。
四王子が逐はれて國を出て後の事が譯せら
れてないので釋迦種族の説明が未完である
から、慈雲尊者全集の編者は有部破僧事第
二の文を以て補うてある。

釋迦種族論

①(日) Sha-ka-shu-zō-
ku-ron. ②一卷 ③存 ④井上哲次郎著
⑤明治三〇刊 ⑥(正大、一〇三四・一六)
(谷大、外洋・三九二)(京大、一・二二・六)
(京大、印哲 R・二二)(帝國・一九・五七一)
⑦(京大、印哲 R・二二)(帝國・一九・五七一)
⑧(京大、印哲 R・二二)(帝國・一九・五七一)
⑨(京大、印哲 R・二二)(帝國・一九・五七一)
⑩(京大、印哲 R・二二)(帝國・一九・五七一)
⑪(京大、印哲 R・二二)(帝國・一九・五七一)
⑫(京大、印哲 R・二二)(帝國・一九・五七一)
⑬(京大、印哲 R・二二)(帝國・一九・五七一)
⑭(京大、印哲 R・二二)(帝國・一九・五七一)
⑮(京大、印哲 R・二二)(帝國・一九・五七一)
⑯(京大、印哲 R・二二)(帝國・一九・五七一)
⑰(京大、印哲 R・二二)(帝國・一九・五七一)
⑱(京大、印哲 R・二二)(帝國・一九・五七一)
⑲(京大、印哲 R・二二)(帝國・一九・五七一)
⑳(京大、印哲 R・二二)(帝國・一九・五七一)
㉑(京大、印哲 R・二二)(帝國・一九・五七一)
㉒(京大、印哲 R・二二)(帝國・一九・五七一)
㉓(京大、印哲 R・二二)(帝國・一九・五七一)
㉔(京大、印哲 R・二二)(帝國・一九・五七一)
㉕(京大、印哲 R・二二)(帝國・一九・五七一)
㉖(京大、印哲 R・二二)(帝國・一九・五七一)
㉗(京大、印哲 R・二二)(帝國・一九・五七一)
㉘(京大、印哲 R・二二)(帝國・一九・五七一)
㉙(京大、印哲 R・二二)(帝國・一九・五七一)
㉚(京大、印哲 R・二二)(帝國・一九・五七一)
㉛(京大、印哲 R・二二)(帝國・一九・五七一)
㉜(京大、印哲 R・二二)(帝國・一九・五七一)
㉝(京大、印哲 R・二二)(帝國・一九・五七一)
㉞(京大、印哲 R・二二)(帝國・一九・五七一)
㉟(京大、印哲 R・二二)(帝國・一九・五七一)
㊱(京大、印哲 R・二二)(帝國・一九・五七一)
㊲(京大、印哲 R・二二)(帝國・一九・五七一)
㊳(京大、印哲 R・二二)(帝國・一九・五七一)
㊴(京大、印哲 R・二二)(帝國・一九・五七一)
㊵(京大、印哲 R・二二)(帝國・一九・五七一)
㊶(京大、印哲 R・二二)(帝國・一九・五七一)
㊷(京大、印哲 R・二二)(帝國・一九・五七一)
㊸(京大、印哲 R・二二)(帝國・一九・五七一)
㊹(京大、印哲 R・二二)(帝國・一九・五七一)
㊺(京大、印哲 R・二二)(帝國・一九・五七一)
㊻(京大、印哲 R・二二)(帝國・一九・五七一)
㊼(京大、印哲 R・二二)(帝國・一九・五七一)
㊽(京大、印哲 R・二二)(帝國・一九・五七一)
㊾(京大、印哲 R・二二)(帝國・一九・五七一)
㊿(京大、印哲 R・二二)(帝國・一九・五七一)

① 釋迦佛を禮讃する十五偈、及び三禮文より成る。十五偈は佛の相好說法度生を讃するものであるが、後部の十二偈の各末句に「故我禮讚牟尼尊」とあるにより、十二禮と名づけた。偈中、注意すべき句は「五百大願度衆生」、「當在靈山而不滅」、「甚深最勝一乘教」、「往來娑婆八千遍」などであらう。此禮文は龍樹の作と傳ふる十二禮、及び善導の往生禮讃の中夜禮に文言の通ずるものがある。

釋迦出家發心事 ①(日) Shu-ka-shuk-ke-lus-shin-no-koto. ② 一卷 ③ 存 ④ 古寫本(龍大、別置)

釋迦正宗 ①(日) Shu-ka-shō shu. ② 一卷 ③ 存 ④ 清水梁山(一昭和 III A. D. 1928)著 ⑤ 明治一八刊 ⑥ 帝國、二五・一九三)

釋迦成道記 ①(日) Shu-ka-jō-do-ki. ② 三卷 ③ 存 ④ 正保四刊 ⑤ 龍大、二五・一〇四)

釋迦成道降魔譜 ①(日) Shu-ka-jō-do-gō-ma-san. (支) Shu-chia-cheng-tuo-tsing-mo-san. 釋迦牟尼佛成道在菩提樹降魔譜、釋迦牟尼佛成道在菩提樹下降魔譜 ② 一卷 ③ 存 ④ 大正一九・九七 N. 941. 縮開一五、己綴一・一五 ⑤ (參考) 惠運 禪師將來教法目錄

釋迦成道證 ①(日) Shu-ka-jō-do-jō. ② 一卷 ③ 最澄(神護景雲元一弘仁一 III A. D. 767-822)撰 ④ (參考) 本朝台祖撰述 密部書目、山家祖德撰述篇目集卷上

釋迦千輻輪讚 ①(日) Shu-ka-sen-

puku-rin-san. (支) Shu-chia-chien-fu-tum-tsun. ② 一卷 ③ (參考) 惠運禪師將來教法目錄

釋迦像の藝術史的研究 ①(日) Shu-ka-zō-no-gei-jutsu-shi-tek-ken-kyū. ② 一卷 ③ 存 ④ 今泉雄作、津田敬武共著 ⑤ 大正一一刊 ⑥ (龍大、二〇六一・九)(正大、一〇五・二一、一〇五・八七) ⑦ 東京言説社

釋迦像の研究 ①(日) Shu-ka-zō-no-ken-kyū. ② 一卷 ③ 存 ④ 今泉雄作、津田敬武共著 ⑤ 明治四四、同四五再刊 ⑥ (正大、一〇五・二〇、一〇五・三六、B 一八・三六)(龍大、二〇六一・一〇)(京大、印哲 R・一) ⑦ 東京聚精堂

釋迦如來一代記 ①(日) Shu-ka-nyō-rai-ichida-ki. ② 十卷 ③ 存 ④ 天保四刊 ⑤ (帝國、二四四・三一七)

釋迦如來應化事蹟 ①(日) Shu-ka-nyō-rai-o-ke-ji-seki. ② 四卷 ③ 存 ④ (龍大、別置)

釋迦如來應化錄 ①(日) Shu-ka-nyō-rai-o-ke-roku. (支) Shu-chia-ji-tai-yung-lu. ② 六卷 ③ 存 ④ 己綴二・三・二 ⑤ 明實成(一康熙三六 A. D. 1697)編 ⑥ 著者寶成名は虞悖、號は興庵、江蘇常熟の人、明末清初の頃の人、康熙三十六年丁丑(A. D. 1697)の進士、官大僕少卿に至る。本書六卷序跋なくその成立の年時を知ることが出来なく。其の内容は釋尊八十年の生涯中、殊に一化五十年の教化傳道録を諸經論に基いて編集したるもの。釋尊傳研究の一資料である。左に便宜の爲め項目を列舉する。

【卷上之一】 釋迦垂迹。最初因地。買華供佛。上託兜率。羅曇貴姓。淨飯聖王。摩耶託夢。樹下誕生。從園還城。仙人占相。大赦修福。姨母養育。往謁天祠。園林嬉戲。習學書數。講演武藝。太子灌頂。遊觀農務。諸王勸力。悉達納妃。五欲娛樂。空聲贊策。飯王應夢。路逢老人。道見病臥。路親死屍。得遇沙門。耶輸應夢。初啓出家。夜半踰城。金刀落髮。車匿辭還。車匿還宮。詰問林德。勸請迴宮。調伏二僮。六年苦行。遠餉資糧。牧女乳糜。禪河澡浴。帝釋獻衣。詣菩提場。天人獻草。龍王讚歎。坐菩提座。魔王得夢。魔子諷父。魔女炫耀。魔軍拒戰。魔衆坤餅。地神作證。魔子懺悔。菩薩降魔。成等正覺。

【卷上之二】 諸天讚賀。華嚴大法。觀善提樹。龍宮入定。林間宴坐。四王獻針。二商奉食。梵天勸請。轉妙法輪。度富樓那。仙人求度。船師悔責。耶舍得度。降伏火龍。急流分斷。棄除祭器。竹園精舍。領待投佛。迦葉求度。假孕誘佛。諸佛還國。認子釋疑。度弟難陀。羅睺出家。須達見佛。

【卷上之三】 布金買地。玉耶受訓。漁人求度。月光諫父。申日毒飯。佛化無惱。降伏六師。持劍害佛。佛教尼健。初建戒壇。敷宣戒法。姨母求度。度跋陀女。再還本國。爲王說法。佛留影像。度諸釋種。降伏毒龍。化諸婢女。阿難索乳。調伏醉象。服弓害物。佛化盧志。貧公見佛。老人出家。醜女改容。

【卷下之一】 夫人滿願。鸚鵡請佛。惡牛蒙度。白狗吠佛。火中取子。見佛生信。因婦得度。育兒見佛。老婢得度。勸親請佛。囑兒飯佛。貸錢辦食。老乞遇佛。說苦佛來。談樂佛至。祀天遇佛。佛度居兒。度網漁人。度捕獵人。佛化醜兒。救度賊人。度除糞人。施食緣起。目連救母。佛教嬰兒。金剛請食。鬼母尋子。小兒施土。楊枝淨水。採華獻佛。燃燈不滅。上轎供佛。施衣得記。衣救龍難。說呪消災。證明說呪。龍宮說法。天龍雲集。佛讚地藏。勝光問法。維摩示疾。文殊問疾。金鼓懺悔。楞伽說經。圓覺三觀。楞嚴大定。般若真空。付囑國王。法華妙典。飯王得病。

【卷下之二】 佛還親父。殖送父王。佛救釋種。爲母說法。最初造像。浴佛形像。姨母涅槃。請佛入滅。佛指移石。囑分舍利。付囑諸天。付囑龍王。請佛住世。天龍悲泣。魔王說呪。純陀後供。度須跋陀。佛現金剛。如來隱記。最後垂訓。臨終遺教。荼毗法則。造塔法式。應盡還源。雙林入滅。

【卷下之三】 金剛哀戀。佛母得夢。昇天報母。佛母散華。佛母散華。佛從棺起。金棺不動。金棺自舉。佛現雙足。凡火不燃。聖火自焚。均分舍利。結集法藏。育王起塔。育王得珠。迦葉付法。迦葉入定。商那受法。耆多籌算。蜜多持幡。馬鳴辭屈。龍樹造論。提婆繫昨。天親造論。神

付應供。十大明王。變法諸天。師子傳法。達磨西來。

⑤正保五刊 ①(龍大、二九六一・八、研佛) (京大、藏・一九三・三)(谷大、餘大・一八九)

釋迦如來行蹟

①(日) Sha-ka-nyo-rai-gyo-seki-jū (支) Shih-chia-jū-lai-hsing-chi-sung. ②二卷 ③存、己續二・二・三・一 ④無寄撰 ⑤元天曆元(A.D.1328)

⑥本書は元の文宗(A.D.1328—1331)の世天曆元年、始興山・天台の學僧たる雲默庵の無寄に依つて、釋尊八十年の生涯—誕生、成婚、出家、成道、說法、涅槃—の行蹟を輯録したるもの。其の資料として一は高麗諸觀撰天台四教儀の文に依り、他は諸經論中の傳記に關する部分を拾ひ集めて頌文を作り、總じて七百七十六句となし、文中解し難い所、説明を要する所には、それぞれ註釋を施して、讀者の便宜に供してゐる。釋尊傳研究の一材料となるべきものである。本書の首めに、大元至順元年(A.D.1330)、正順大夫密直司左司副代言判繕工寺進賢提學知製 教李叔琪述の序文を載せてゐる。

釋迦如來賢劫記 ①(日) Sha-ka-nyo-rai-ken-gō-ki (支) Shih-chia-jū-lai-hsien-chieh-ki. ②一帖 ③(參考) 慈覺大師在唐送進錄

釋迦如來御一生記 ①(日) Sha-ka-nyo-rai-gō-iss-shū-ki. ②三卷 ③存 ④刊本(京大、國文)

釋迦如來降生禮讚文 ①(日) Sha-ka-nyo-rai-jō-shū-rai-san-mon. (支) Shih-chia-jū-lai-chiang-sheng-jū-san-wén. 釋迦降生禮讚文 ②一卷 ③存、己續二・三・一 ④宋仁岳(淳化三—治平元A.D.992—1064)撰

釋迦如來涅槃禮讚文と姉妹の作で其の序文にある様に「此頃吾が宗(天台宗)の事を好む者が四月八日に佛像を浴して後其の讃頌を陳べる偈文を請はれ、それを僧祇式の始終に之を行ふといふので、釋迦の平生譚や因果經を研究し十讚、五悔法を著はした。」といふ。蓋し灌佛會の式典は宋以前から行はれてゐたであらうが降生禮讚となつてまとまつたのは仁岳を以て最初と見てよいと思ふ。十讚とは一心頂禮然燈佛所受能仁記萌時身釋迦文佛。一心頂禮兜率天上示一生、補處時身(前同以下略)一心頂禮迦維衛國陀摩耶懷妊時身。一心頂禮無憂樹下誕生妃右脇時身。一心頂禮東宮受職現納妃厭欲時身。一心頂禮四門遊觀親無常樂道時身。一心頂禮泰宮手夜踰國城出俗時身。一心頂禮伽耶山內修六年苦行時身。一心頂禮照連河畔受難陀施食時身。一心頂禮金剛座上降天魔成道時身。で各讚の次に七言八句の偈文を連ねて其終りに故我一心歸命頂禮と結んでゐる。五悔は懺悔、勸請、隨喜、回向、發願、で各悔の最後に至心歸命三寶で終つてゐる。

釋迦如來成道記 ①(日) Sha-ka-nyo-rai-jō-dō-ki. (支) Shih-chia-jū-lai-ching-tao-ki. ②一卷 ③存、己續二・三・一 ④釋迦如來成道記註之内、五部合刻之内 ⑤唐代王勃撰

釋迦如來成道記註 ①(日) Sha-ka-nyo-rai-jō-dō-ki-shū. ②一卷 ③存、己續二・三・一 ④釋迦如來成道記註之内、五部合刻之内 ⑤唐代王勃撰

釋迦如來成道記註 ①(日) Sha-ka-nyo-rai-jō-dō-ki-shū. ②一卷 ③存、己續二・三・一 ④釋迦如來成道記註之内、五部合刻之内 ⑤唐代王勃撰

釋迦如來成道記註 ①(日) Sha-ka-nyo-rai-jō-dō-ki-shū. ②一卷 ③存、己續二・三・一 ④釋迦如來成道記註之内、五部合刻之内 ⑤唐代王勃撰

釋迦如來成道記註 ①(日) Sha-ka-nyo-rai-jō-dō-ki-shū. ②一卷 ③存、己續二・三・一 ④釋迦如來成道記註之内、五部合刻之内 ⑤唐代王勃撰

釋迦如來成道記註 ①(日) Sha-ka-nyo-rai-jō-dō-ki-shū. ②一卷 ③存、己續二・三・一 ④釋迦如來成道記註之内、五部合刻之内 ⑤唐代王勃撰

釋迦如來成道記註 ①(日) Sha-ka-nyo-rai-jō-dō-ki-shū. ②一卷 ③存、己續二・三・一 ④釋迦如來成道記註之内、五部合刻之内 ⑤唐代王勃撰

釋迦如來成道記註 ①(日) Sha-ka-nyo-rai-jō-dō-ki-shū. ②一卷 ③存、己續二・三・一 ④釋迦如來成道記註之内、五部合刻之内 ⑤唐代王勃撰

釋迦如來成道記註 ①(日) Sha-ka-nyo-rai-jō-dō-ki-shū. ②一卷 ③存、己續二・三・一 ④釋迦如來成道記註之内、五部合刻之内 ⑤唐代王勃撰

釋迦如來成道記註 ①(日) Sha-ka-nyo-rai-jō-dō-ki-shū. ②一卷 ③存、己續二・三・一 ④釋迦如來成道記註之内、五部合刻之内 ⑤唐代王勃撰

釋迦如來成道記註 ①(日) Sha-ka-nyo-rai-jō-dō-ki-shū. ②一卷 ③存、己續二・三・一 ④釋迦如來成道記註之内、五部合刻之内 ⑤唐代王勃撰

釋迦如來成道記註 ①(日) Sha-ka-nyo-rai-jō-dō-ki-shū. ②一卷 ③存、己續二・三・一 ④釋迦如來成道記註之内、五部合刻之内 ⑤唐代王勃撰

釋迦如來成道記註 ①(日) Sha-ka-nyo-rai-jō-dō-ki-shū. ②一卷 ③存、己續二・三・一 ④釋迦如來成道記註之内、五部合刻之内 ⑤唐代王勃撰

釋迦如來成道記註 ①(日) Sha-ka-nyo-rai-jō-dō-ki-shū. ②一卷 ③存、己續二・三・一 ④釋迦如來成道記註之内、五部合刻之内 ⑤唐代王勃撰

釋迦如來成道記註 ①(日) Sha-ka-nyo-rai-jō-dō-ki-shū. ②一卷 ③存、己續二・三・一 ④釋迦如來成道記註之内、五部合刻之内 ⑤唐代王勃撰

釋迦如來成道記註 ①(日) Sha-ka-nyo-rai-jō-dō-ki-shū. ②一卷 ③存、己續二・三・一 ④釋迦如來成道記註之内、五部合刻之内 ⑤唐代王勃撰

釋迦如來成道記註 ①(日) Sha-ka-nyo-rai-jō-dō-ki-shū. ②一卷 ③存、己續二・三・一 ④釋迦如來成道記註之内、五部合刻之内 ⑤唐代王勃撰

釋迦如來成道記註 ①(日) Sha-ka-nyo-rai-jō-dō-ki-shū. ②一卷 ③存、己續二・三・一 ④釋迦如來成道記註之内、五部合刻之内 ⑤唐代王勃撰

釋迦如來成道記註 ①(日) Sha-ka-nyo-rai-jō-dō-ki-shū. ②一卷 ③存、己續二・三・一 ④釋迦如來成道記註之内、五部合刻之内 ⑤唐代王勃撰

釋迦如來成道記註 ①(日) Sha-ka-nyo-rai-jō-dō-ki-shū. ②一卷 ③存、己續二・三・一 ④釋迦如來成道記註之内、五部合刻之内 ⑤唐代王勃撰

釋迦如來成道記註 ①(日) Sha-ka-nyo-rai-jō-dō-ki-shū. ②一卷 ③存、己續二・三・一 ④釋迦如來成道記註之内、五部合刻之内 ⑤唐代王勃撰

釋迦如來成道記註 ①(日) Sha-ka-nyo-rai-jō-dō-ki-shū. ②一卷 ③存、己續二・三・一 ④釋迦如來成道記註之内、五部合刻之内 ⑤唐代王勃撰

釋迦如來成道記註 ①(日) Sha-ka-nyo-rai-jō-dō-ki-shū. ②一卷 ③存、己續二・三・一 ④釋迦如來成道記註之内、五部合刻之内 ⑤唐代王勃撰

釋迦如來成道記註 ①(日) Sha-ka-nyo-rai-jō-dō-ki-shū. ②一卷 ③存、己續二・三・一 ④釋迦如來成道記註之内、五部合刻之内 ⑤唐代王勃撰

釋迦如來成道記註 ①(日) Sha-ka-nyo-rai-jō-dō-ki-shū. ②一卷 ③存、己續二・三・一 ④釋迦如來成道記註之内、五部合刻之内 ⑤唐代王勃撰

釋迦如來成道記註 ①(日) Sha-ka-nyo-rai-jō-dō-ki-shū. ②一卷 ③存、己續二・三・一 ④釋迦如來成道記註之内、五部合刻之内 ⑤唐代王勃撰

釋迦如來成道記註 ①(日) Sha-ka-nyo-rai-jō-dō-ki-shū. ②一卷 ③存、己續二・三・一 ④釋迦如來成道記註之内、五部合刻之内 ⑤唐代王勃撰

釋迦如來成道記註 ①(日) Sha-ka-nyo-rai-jō-dō-ki-shū. ②一卷 ③存、己續二・三・一 ④釋迦如來成道記註之内、五部合刻之内 ⑤唐代王勃撰

釋迦如來成道記註 ①(日) Sha-ka-nyo-rai-jō-dō-ki-shū. ②一卷 ③存、己續二・三・一 ④釋迦如來成道記註之内、五部合刻之内 ⑤唐代王勃撰

釋迦如來成道記註 ①(日) Sha-ka-nyo-rai-jō-dō-ki-shū. ②一卷 ③存、己續二・三・一 ④釋迦如來成道記註之内、五部合刻之内 ⑤唐代王勃撰

釋迦如來成道記註 ①(日) Sha-ka-nyo-rai-jō-dō-ki-shū. ②一卷 ③存、己續二・三・一 ④釋迦如來成道記註之内、五部合刻之内 ⑤唐代王勃撰

釋迦如來成道記註 ①(日) Sha-ka-nyo-rai-jō-dō-ki-shū. ②一卷 ③存、己續二・三・一 ④釋迦如來成道記註之内、五部合刻之内 ⑤唐代王勃撰

釋迦如來成道記註 ①(日) Sha-ka-nyo-rai-jō-dō-ki-shū. ②一卷 ③存、己續二・三・一 ④釋迦如來成道記註之内、五部合刻之内 ⑤唐代王勃撰

釋迦如來成道記註 ①(日) Sha-ka-nyo-rai-jō-dō-ki-shū. ②一卷 ③存、己續二・三・一 ④釋迦如來成道記註之内、五部合刻之内 ⑤唐代王勃撰

釋迦如來成道記註 ①(日) Sha-ka-nyo-rai-jō-dō-ki-shū. ②一卷 ③存、己續二・三・一 ④釋迦如來成道記註之内、五部合刻之内 ⑤唐代王勃撰

釋迦如來成道記註 ①(日) Sha-ka-nyo-rai-jō-dō-ki-shū. ②一卷 ③存、己續二・三・一 ④釋迦如來成道記註之内、五部合刻之内 ⑤唐代王勃撰

釋迦如來成道記註 ①(日) Sha-ka-nyo-rai-jō-dō-ki-shū. ②一卷 ③存、己續二・三・一 ④釋迦如來成道記註之内、五部合刻之内 ⑤唐代王勃撰

釋迦如來成道記註 ①(日) Sha-ka-nyo-rai-jō-dō-ki-shū. ②一卷 ③存、己續二・三・一 ④釋迦如來成道記註之内、五部合刻之内 ⑤唐代王勃撰

釋迦如來成道記註 ①(日) Sha-ka-nyo-rai-jō-dō-ki-shū. ②一卷 ③存、己續二・三・一 ④釋迦如來成道記註之内、五部合刻之内 ⑤唐代王勃撰

釋迦如來成道記註 ①(日) Sha-ka-nyo-rai-jō-dō-ki-shū. ②一卷 ③存、己續二・三・一 ④釋迦如來成道記註之内、五部合刻之内 ⑤唐代王勃撰

釋迦如來成道記註 ①(日) Sha-ka-nyo-rai-jō-dō-ki-shū. ②一卷 ③存、己續二・三・一 ④釋迦如來成道記註之内、五部合刻之内 ⑤唐代王勃撰

釋迦如來成道記註 ①(日) Sha-ka-nyo-rai-jō-dō-ki-shū. ②一卷 ③存、己續二・三・一 ④釋迦如來成道記註之内、五部合刻之内 ⑤唐代王勃撰

釋迦如來成道記註 ①(日) Sha-ka-nyo-rai-jō-dō-ki-shū. ②一卷 ③存、己續二・三・一 ④釋迦如來成道記註之内、五部合刻之内 ⑤唐代王勃撰

釋迦如來成道記註 ①(日) Sha-ka-nyo-rai-jō-dō-ki-shū. ②一卷 ③存、己續二・三・一 ④釋迦如來成道記註之内、五部合刻之内 ⑤唐代王勃撰

釋迦如來成道記註 ①(日) Sha-ka-nyo-rai-jō-dō-ki-shū. ②一卷 ③存、己續二・三・一 ④釋迦如來成道記註之内、五部合刻之内 ⑤唐代王勃撰

釋迦如來成道記註 ①(日) Sha-ka-nyo-rai-jō-dō-ki-shū. ②一卷 ③存、己續二・三・一 ④釋迦如來成道記註之内、五部合刻之内 ⑤唐代王勃撰

釋迦如來成道記註 ①(日) Sha-ka-nyo-rai-jō-dō-ki-shū. ②一卷 ③存、己續二・三・一 ④釋迦如來成道記註之内、五部合刻之内 ⑤唐代王勃撰

釋迦如來成道記註 ①(日) Sha-ka-nyo-rai-jō-dō-ki-shū. ②一卷 ③存、己續二・三・一 ④釋迦如來成道記註之内、五部合刻之内 ⑤唐代王勃撰

釋迦如來成道記註 ①(日) Sha-ka-nyo-rai-jō-dō-ki-shū. ②一卷 ③存、己續二・三・一 ④釋迦如來成道記註之内、五部合刻之内 ⑤唐代王勃撰

釋迦如來成道記註 ①(日) Sha-ka-nyo-rai-jō-dō-ki-shū. ②一卷 ③存、己續二・三・一 ④釋迦如來成道記註之内、五部合刻之内 ⑤唐代王勃撰

釋迦如來成道記註 ①(日) Sha-ka-nyo-rai-jō-dō-ki-shū. ②一卷 ③存、己續二・三・一 ④釋迦如來成道記註之内、五部合刻之内 ⑤唐代王勃撰

① (日) Sha ka nyo-rai-tan-jō-man-da-ra-ryaku-ge. ② 一巻 ③ 存 ④ 功譽述 ⑤ 刊本(正大、一五八・五七)

釋迦如來傳

① (日) Sha-ka-nyo-rai-den. ② 一巻 ③ 存、佛教文庫第一七

鷲尾順敬著 ④ 昭和七刊 ⑤ 東京東方書院

釋迦如來涅槃禮讚文

① (日) Sha-ka-nyo-rai-ne-han-rai-san-mon. (支)

Shih-chia-jia-lai-nieh-p'an-li-san-wen. ② 一巻 ③ 存、大正四六・九六三No. 1947

縮調一〇・三三〇・八・三三三・三・一、明北

1513輔、清1532馳、明南1498寶、Nj. 1530

④ 宋仁岳(淳化三—治平元 A. D. 992—1064)撰

⑤ 初めに自序あり、述作の由來を述ぶ。曰く釋尊涅槃日に際し、佛徒たるもの法要をつとめ、佛德を禮讃すべきである。このことは既に古く僧祇律等にもすゝめる所である。支那では昔孤山中庸子に涅槃八德讃があるが、吳と蜀との音韻の相違あり、江浙地方ではあまり行はれてゐぬ。されば今遠式の天台智者大師齊忌禮讃の式に准じてこの禮讃文を作つたと云ふのである。禮讃の偈頌は十四章あり各章八句よりなる。初十章は讚佛、次の一章は讚法、後の五章は讚僧である。

⑥ 康熙六刊 ⑦ (京大、藏・一八八・四) (谷大、餘大・二三三) (龍大、別置) (塚本善隆)

釋迦如來法 ① (日) Sha-ka-nyo-rai-ho. ② 存 ③ 足利時代寫(寶善提院)寫本(寶龜院)

釋迦年代考 ① (日) Sha-ka-nen-dai

ko. ② 一巻 ③ 存 ④ 桑原騰造述 ⑤ (京專)

釋迦の研究

① (日) Sha-ka-no-ken-kyū. ② 一巻 ③ 存 ④ 羽溪了諦著 ⑤ 明治四三刊(龍大、研佛)

釋迦の生涯及其教理 ① (日) Sha-ka-no-shō-gai-kyōji-sō-shō-kyō-ri. ② 一巻 ③ 存 ④ 英リスデギス著、赤沼智善譯 ⑤ 明治四四刊 ⑥ (龍大、二九六・一八)

釋迦八相 ① (日) Sha-ka-has-sō. ② 一巻 ③ 存 ④ 寫本(龍大、研史)

釋迦八相鈔 ① (日) Sha-ka-has-sō-zō. ② 一巻 ③ 存 ④ 參考 ⑤ 淨土真宗教典志第二

釋迦八相二十四輩勸考 ① (日) Sha-ka-has-sō-ni-jū-shi-lai-ku-an-ko. ② 考 ③ 寫本(龍大、一〇五・二九)

釋迦八相物語 ① (日) Sha-ka-has-sō-mono-gatari. ② 八巻 ③ 存 ④ 寛文六刊 ⑤ (正大、一〇三四・四) (谷大、餘大・三二九)

釋迦八相略鈔 ① (日) Sha-ka-has-sō-ryaku-zō. ② 三巻 ③ 存 ④ 寫本(龍大、二九六・一〇)

釋迦畢罪經 ① (日) Sha-ka-his-sai-zai-kyō. (支) Shih-chia-pi-tsai-ching. 釋家畢罪經 ② 一巻 ③ 失譯 ④ 六度集經第五卷の抄出 ⑤ (參考) 出三藏記第四、仁壽錄第三、靜泰錄第三、開元錄第一六、貞元錄第二六

釋迦譜

① (日) Sha-ka-fu. (支) Shih-chia-pu. ② 五巻或十巻 ③ 存、大正五〇・一 No. 2040、縮致一、二七・三、北

1049線、南1065線、元1061線、明北1461

書、清1464線、麗1054線、天1048線、指

1009線、法1036線、至1596傾、明南1458

將、Nj. 1468 ④ 梁僧祐(元嘉二—二天監一

七 A. D. 445—518)撰

⑤ 大小乗の經律の中から釋迦牟尼佛に關する事蹟を探索し、これを各種條目の下に次第を逐うて記述したもの。一一その出典を示し、本文を抄録してある。卷首に自序を掲げ、次に十四句の偈を載せ、條目を三十四に分ち、各條の末尾には大率簡單な撰者の所見を加へてゐる。條目及びその下に抄出された主要の經典を列示すれば左の如くである。

〔卷一〕(一)釋迦始祖劫初刹利相承姓譜(長阿含經)。(二)釋迦始祖劫初姓世尊緣譜(十二遊經)。(三)釋迦六世祖始姓釋氏緣譜(長阿含經)。(四)釋迦降生釋種成佛緣譜(普曜經)。(五)釋迦在七佛末種姓衆數同異譜(長阿含經)。(六)釋迦同三千佛緣譜(藥王藥上觀經)。(七)釋迦内外族姓名譜(長阿含經)。(八)釋迦弟子姓釋緣譜(增一阿含經)。(九)釋迦四部名開弟子譜(增一阿含經)。

〔卷二〕(一)釋迦從弟調達出家緣記(中本起經)。(二)釋迦從弟阿那律跋提出家記(曇無德律)。(三)釋迦從弟孫陀羅難陀出家緣記(出曜經)。(四)釋迦子羅雲出家緣記(未曾有經)。(五)釋迦姨母大愛道出家記(中本起經)。(六)釋迦父淨飯王泥洹記(淨飯王泥洹經)。(七)釋迦母摩耶夫人記(佛昇忉利天經)。(八)釋迦姨母大愛道泥洹記(佛母泥洹經)。(九)釋迦姨母大愛道泥洹記(長阿含經)。

〔卷三〕(一)釋迦竹林精舍緣記(曇無德律)。(二)釋迦祇園精舍緣記(賢愚經)。(三)釋迦髮爪塔緣記(十誦律)。(四)釋迦天上四塔記(集經抄)。(五)優填王造釋迦栴檀像記(增一阿含經)。(六)波斯匿王造釋迦金像記(增一阿含經)。(七)阿育王弟出家造釋迦石像記(求離牢獄經)。(八)釋迦留影在石室記(觀佛三昧經)。

〔卷四〕(一)釋迦雙樹般涅槃記(大涅槃經)。(二)釋迦八國分舍利記(雙卷泥洹經)。(三)釋迦天上龍宮舍利寶塔記(菩薩處胎經)。(四)釋迦龍宮佛髻塔記(阿育王經)。

〔卷五〕(一)阿育王造八萬四千塔記(雜阿含經)。(二)釋迦獲八千四千塔宿緣記(賢愚經)。(三)釋迦法滅盡緣記(雜阿含經)。(四)釋迦法滅盡相記(法滅盡經)。

この書は現存する支那撰述の佛傳として是最古のものであり、而かも序にいふ如く經典に散説せられた釋尊一代の始終に亘る千條萬變の化儀に就いて、錯綜した諸説の首尾を一貫せしめ、釐清した事實の同異を會通しようとする撰者の努力が拂はれてをり、又博識し難い經文を總集して、通覽し易くしてあるので、學者を裨益するものが尠くない。されど聊か冗長繁雜の嫌がある。これやがて唐の道宣に省略された釋迦氏譜の撰ある所以である。

高麗本はこの書を五巻とし、宋、元、明

の三本は十卷としてゐる。出三藏記集卷十二に收むる序及び目錄に照せば、五卷本がその原形であつたことは疑はない。但し歷代三寶記卷十一及び大唐内典錄卷四には四卷となつてゐる。道宣の釋迦氏譜の序には釋迦譜一帙十卷とあり、内典錄卷四にも、更に十卷本あり、余親しく之れを讀むと注してゐるから、當時既に十卷本が存在してゐたことは明かである。開元錄卷六にもこの書を録して十卷とし、而もその下に注して齊代の撰に別に五卷本があり、此れと廣略異ると述べてゐる。高麗本と他の三本とを對照すれば、高麗本では第四の釋迦降生釋種成佛緣譜が簡略であるが、三本ではこの條を著しく増益し、その記述は卷一から卷五に亘つてをり、從つて所引の經典にも彼此廣略異同がある。各々開元錄に注する異本を傳へたものといへよう。謂ふに一部三十四條の中、専ら釋尊自身を記するものは、獨りこの條であつて、一部の中心ともいふべき重要な一條であるから、五卷の原本撰述後幾許もなく、後人の手につて増益されたものであらう。尙麗本には第十の釋迦從弟調達出家緣記以下の四條が闕けてゐるが、三本にはこれが具つてゐて、補ふことが出来る。

⑥寛文一二刊 ①(正大、一〇三一・三七)(京大、一・二一・七)(帝國、一八九・一五八)(京專)(駒大)(内閣) (名畑應順)
釋迦譜要略 ①(日) Shaka-tu-yō-ryaku. ②三卷 ③存 ④土屋正道著 ⑤明治一三刊 ⑥(高木、寄、一・二一)(哲、ら、

二・左・二一)(龍大、研佛)(谷大、餘大・二二)(正大、一〇三四・二二)(帝國、七・二三八)

釋迦佛儀軌

①(日) Shaka-butai-ritsu. (支) Shih-chia-fo-i-kuai. 釋迦文尼佛金剛一乘修行儀軌法品、金剛一乘修業儀軌、釋迦儀軌 ②一卷 ③存、大正一九・八六・九三三、縮録一、己續一・三一 ④釋迦文尼佛金剛一乘修行儀軌法品の下を見よ ⑤寫本(寶善提院)

釋迦佛讚

①(日) Shaka-bus-san. (支) Shih-chia-fo-tsan. ②一卷 ③存、大正一九・九七・No. 932 ④清代達喇嘛薩穆丹達爾吉譯

⑤釋尊の智光赫として、法界涯を照すこととや、千輻輪の妙相殊に降魔成道の事などを讃歎したもので、五字一句若しくは七字一句の偈文から成るものであるが、五字一句の四句の偈は四偈であつて、その他は悉く七字一句の偈文である。(神林隆淨)

釋迦佛像圖記

①(日) Shaka-butsu-zō-zu-ki. ②一卷 ③存、佛門衣服正儀編附錄 ④鳳澤僧濟(承應三一元文三A.D. 1654—1738)記 ⑤刊本(谷大、餘大、一六四〇)享保一七刊(龍大、二〇七四・五)

釋迦方志

①(日) Shaka-hō-shi. (支) Shih-chia-fang-chih. ②二卷或三卷 ③存、大正五一・九四八No. 2088、縮致一、己二七・三、北1051、南1067、元1063、仙、明北1463、慶1055、天1049、指1011、法1033、至1528、明南1460、想、Nj. 1470 ④道宣(開皇一六一乾封二

A.D. 596—657) ⑤唐永徽元(A.D. 650)

⑥佛教弘傳の西域印度の方土を記述したものである。通常は二卷であるが明本は三卷となつてゐる。卷頭に序ありて「昔隨代東都上林園翻經館沙門彥琮著西域傳一部十篇廣布風俗略於佛事得在洽聞失於信本余以爲八相顯道三乘陶化四儀所設莫不迴機二教攸被皆宗慧解今聖迹靈相難查於華胥神光瑞影氣氤於宇內義須昌明形量動發心靈泉貞觀譯經尊參位席傍出西記具如別詳但以紙墨易繁閱覽難盡佛之遺緒釋門共歸故撮綱猷略爲一卷胎諸後學」と本書述の目的を述べ、本文は八篇に分たれて、封疆篇第一、では佛土について説く。此の娑婆世界は鐵輪山を以て周らされ、山の外は無限の空、山の下は金水風の順に重つて、その以外は無限の虚空であるとして「智度論」を引いて一佛所王土の廣大なるを説明し、統攝篇第二、では鐵輪山内所攝の國土萬億にして國土毎に須彌山あるを説き、次いで小千世界、大千世界、三千大千世界について述ぶ。中邊篇第三、では西域印度の地理を説く。各國間の里程など極めて詳しく述べてゐる。遺跡篇第四、では漢より唐にかけて印度へ往くものは種々の道によつたが概して東、中、北の三道であるとしてその沿道の國々の有様を玄奘の『西域記』によつて要を抜録してゐる。吐蕃道に關して特に詳しいのは李儀表、王玄策等がこの道により入竺したので此れ等の使臣が歸りての報告によつたものと思はれる。本篇は八篇中最も長く詳細を極めて上卷の後半と下卷の前半を占めてゐる。遊履篇第五には

前漢の博望侯張騫より唐の玄奘に至る前後十六回の西域遊蹤を記録して居り、通局篇第六、には古來佛教の瑞蹟を述べ、時住篇第七、では成住壞空の四劫及び正像末に就いて説いて居る。本書は正千像千末萬説に従ふ。最後に教相篇第八、に於て支那歷代帝王の三寶興隆に關する事歴を記録してゐる。卷末に「往參譯經旁觀別傳文廣難尋故略舉其要并潤其色同成其類」とあり述作當時の様子を知ることが出来る。(三好鹿雄)

釋迦法

①(日) Shaka-hō. ②一卷 ③存、平安、鎌倉、足利時代、徳治二、文明二寫(寶善提院)延寶七寫(京大、藏・二四・一六)

釋迦法等諸次第

①(日) Shaka-tō-to-shō-shi-dai. ②七帖 ③存 ④應安七寫 ⑤(寶善提院)

釋迦牟尼小傳

①(日) Shaka-muni-shō-den. ②一卷 ③存 ④井上哲次郎撰謙德共著 ⑤大正五刊 ⑥(正大、一〇三四・二五)

釋迦牟尼傳

①(日) Shaka-muni-den. ②一卷 ③存 ④井上哲次郎著 ⑤明治三五刊 ⑥(京大、一・二一・八)(帝國、八六・二五九)(正大、一〇三四・五)(谷大、餘洋・九〇)(高木、一・二一)(立大、B一六・五)

釋迦牟尼傳

①(日) Shaka-muni-den. ②一卷 ③存 ④常盤大定著 ⑤明治四一刊 ⑥(立大、B一六・七、B一六・一〇、B一六・一二)(高木、寄・一・二一)(龍大、二九六・一二)(正大、一〇三四・二七、

二八(谷大、餘洋・四五〇)(京大、佛教D・二・六)(京大、一・二一・三五、一・二一・三四)

釋迦牟尼傳

①(日)Sha-ka-mu-ni-tem. ②一卷 ③存、曹洞禪講義第一〇卷之内 ④松田湛堂著 ⑤大正六刊 ⑥駒大)

釋迦牟尼傳研究

①(日)Sha-ka-mu-ni-den-ken-kyu. ②一卷 ③存 ④宗教哲學研究會編 ⑤大正元刊 ⑥(龍大・二九六・一・一五)

釋迦牟尼と其の教義

①(日)Sha-ka-mu-ni-to-so-no-kyo-gi. ②一卷 ③存 ④長井眞琴著 ⑤大正九刊 ⑥(谷大、餘洋・五〇三)(龍大、二九六・一・一四)(立大、B・二・二八)(高大、寄・一・二二)

釋迦牟尼と女性

①(日)Sha-ka-mu-ni-to-jo-sei. ②一卷 ③存 ④宮崎眞著 ⑤明治三九刊 ⑥(立大・B・二・九二)

釋迦牟尼如來持念次第

①(日)Sha-ka-mu-ni-nyo-rai-ji-nen-shi-dai. 釋迦牟尼持念次第 ②一帖 ③存 ④文和二寫 ⑤(寶壽院)

釋迦牟尼如來像法滅盡之記

①(日)Sha-ka-mu-ni-nyo-rai-zo-bo-me-tsu-jin-no-ki. (支)Shih-shia-mou-ni-ju-lai-hsiang-fa-mieh-chin-chih-chi. 釋迦牟尼如來像法滅盡因緣 ②一卷 ③存、大正五・一九六No.2090 燉煌遺書第一 ④唐法成(一中一〇A.D.856)譯 ⑤本書はフランスのペリオ氏によりて燉煌石室より將來せられし寫本中に存せしもの

にして、西藏の丹珠爾の中に存する于闐國懸記(Li-yu lung-bstan-pu)を西藏の譯經家として著名なる法成が漢譯せしものである。卷首には釋迦牟尼如來像法滅盡之記と題し、卷尾には釋迦牟尼如來像法滅盡因緣一卷と記してある。内容は于闐國第七代の毘左耶訖多王の時代、一羅漢が豫言せし形式にて、于闐國佛教の興廢を述べしものである。于闐並びにその國の佛教、更に古代西域地方の研究の上にも貴重な資料たるは云ふまでもない。殊に困難な西藏原本の研究の上にも重要な参考書である。寺本婉雅氏に西藏原文の邦譯あり、(于闐國史所收)ロツケル氏(Rockhill, The Life of the Buddha)の英譯も存する。

(塚本善隆)

釋迦牟尼如來拔除苦惱現大神變飛空大鉢法

①(日)Sha-ka-mu-ni-nyo-rai-batsu-jo-ku-nu-geu-dai-jin-pen-hi-ku-dai-hatsu-ho. (支)Shih-chia-mou-ni-ju-lai-pa-ch'u-ku-nu-ao-lsien-ta-shen-pien-fei-kuang-ta-po-fa. 飛空大鉢法、大威德祕密飛空鉢法印 ②一卷 ③存、正統二・九・四・祕密儀軌第一〇 ④唐般若傳 ⑤建中二・元和五(A.D.781-810)

釋尊が靈山頂に居られた時に、五百の比丘と八萬の菩薩・天龍・八部の無量の大衆も俱に此の處に集つて居つた。その時に食ふに食物なく、大衆は飢渴に苦しみ、疲勞を感じ始めた。その時に世尊は大慈三昧に入り、光明の中から大鉢を湧出せられた。その大鉢は空に乘じて去り、行方知れずと成

り、大衆は一同喫驚して居つたが、間もなく大鉢が還り來り飯食が大鉢に満盛されてあり、大衆は此の食を得て、飢渴の苦を免れた。而して、その飯食の餘殘を地獄・餓鬼・畜生の三惡趣の衆生が食して、皆飽滿を得たと言はれてある。又曾て釋尊が宿世に大仙で在られた時、雪山の巖中に住し、久しく衣食を斷つて居られた。その時に迦樓羅(Granda)王が、大仙の鉢を持して天上並に人間界に行いて、衣食を満盛して歸へり來り、巖中の大仙並びに一萬人の弟子に供養した事が有つたと記してある。尙鉢の印と眞言とが明してある。

(神林隆澄)

釋迦牟尼佛

①(日)Sha-ka-mu-ni-butsu. ②一卷 ③存 ④梅原薫山著 ⑤明治二七刊 ⑥(谷大、餘洋・一〇三)(龍大、二九六・一・一六)(帝國、七二・一・一三)

釋迦牟尼佛金剛一乘修業儀軌法品

①(日)Sha-ka-mu-ni-butsu-kon-gō-ichi-jō-shu-gyō-gi-ki-hō-hon. ③存、國譯密教經軌部第四

釋迦牟尼佛成道在菩提樹降魔讚

①(日)Sha-ka-mu-ni-butsu-jō-dō-zai-bo-dai-ju-gō-ma-san. (支)Shih-chia-mou-ni-fo-ch'eng-tao-p'u-t'i-shu-hsiang-mo-tsan. 釋迦成道降魔讚、釋迦牟尼佛成道菩提樹下降魔讚 ②一卷 ③存、大正一九・九七No.941、縮圖一五、正統二・二・五 ④(寶壽院)

釋迦牟尼佛成道菩提樹下降魔讚

①(日)Sha-ka-mu-ni-butsu-jō-dō-zai-bo-dai-ju-gō-ma-san. (支)Shih-chia-mou-ni-fo-ch'eng-tao-p'u-t'i-shu-hsiang-mo-tsan. 釋迦牟尼佛成道在菩提樹降魔讚、釋迦成道降魔讚 ②一卷 ③存、大正一九・九七No.941、縮圖一五、正統二・二・五 ④延原五寫 ⑤(寶壽院)

釋迦文寶錄

①(日)Sha-ka-mu-ni-tsu-toku. ②一冊 ③存 ④寫本(哲、五・右・三〇・三四)

釋迦文尼佛金剛一乘修行儀軌法品

①(日)Sha-ka-mu-ni-butsu-kon-gō-ichi-jō-shu-gyō-gi-ki-hō-hon. (支)Shih-chia-wen-ni-fo-ni-kon-gō-ichi-jō-shu-hsing-i-kuai-fa-p'in. 釋迦文佛法、釋迦儀軌金剛一乘修業儀軌 ②一卷 ③存 大正一九・八六No.938、縮餘一、正統二・三・一 ④唐善無畏(貞觀一一一開元二二A.D.637-735)撰

⑤この法品は善無畏三藏が、胎藏法の教旨に依り、釋迦法を記述されたものである、(一)先づ修行者は發菩提心す可きを論じ、(二)師資の相傳の必要を述べ、(三)報佛の相を現じ、金剛祕密教を説示す。(四)如來是因位に於て三密門を修して、執金剛を證す。(五)色界頂第四靜慮に於て、等正覺を成じ。(六)金剛大因陀羅壇に於て法輪を轉ず(七)法輪の中に三十七の聖者あり。(八)釋迦曼荼羅。(九)塗香等の六種供養。(一〇)禮に音・心・身の三種あり。(一一)懺悔罪障。(一二)如來鉢の印言。(一三)如來甘露の印言。

(二)如來錫杖の印言。(三)大法螺の印言。

(四)根本毘盧遮那化身の印言。(五)梵讚等
が明されてある。この中で曼荼羅に關して
は、胎藏の説の如しと言ひ、供養儀式に關
しては、蘇悉地等の如しと記して、詳説を
略してある所に依り、本法が實修實行を目
的として作られたことが解る。(神林隆淨)

釋迦文佛 ①(日) Sha-ka-mom hu=

tsu. 華嚴學上より見たる釋迦文佛 ②一卷
③存 ④龜谷理著 ⑤明治四三刊

(京大、一・二六・九七)

釋迦文佛舍利放

①(日) Sha-ka-mom-butsu-sha-ri-ka. (支) Shih-chia-wen
fo-shé-li-ki-o. ②一册 ③存 ④育王寺
編 ⑤支那刊本(谷大、餘大、四四三六)

釋迦文佛二千九百五十年聖誕
記念大會々務概略 ①(日) Sha-ka-

mom-butsu-ni-sen-ku-hyaku-go-jū-nen
-shū-tan-ki-nen-dai-kwai-kwai-mu-gai-
ryaku. (支) Shih-chia-wen-fo-erh-eh-ien-
chui-pai-wu-shih-nien-sheng-tan-chi-ni-
en-ta-hui-hui-wu-kai-liao. ②一卷 ③

存 ④民國年間刊 ⑤(龍大、研佛)(谷大)

釋迦文佛法

①(日) Sha-ka-mom-
butsu-ho. (支) Shih-chia-wen-fo-fa. 釋迦
文尼佛金剛一乘修行儀軌法品、金剛一乘修
業儀軌、釋迦儀軌 ②一卷 ③存、大正一
九・八六 No. 938 縮録 ④(正續)一・三・一 ⑤
唐善無畏(貞觀一一一開元二二) A. D. 637-
735 撰

釋迦文放鉢經

①(日) Sha-ka-mom-
fo-hatsu-kyō. (支) Shih-chia-wen-fang-

fo-ching. ②一卷 ③缺 ④失譯 ⑤(參
考) 出三藏記第四、武周錄第一二、開元

錄第五、第一五、貞元錄第八、第二五

釋迦論

①(日) Sha-ka-ron. ②一卷
③存 ④高橋五郎著 ⑤明治三九刊 ⑥(龍
大、二九六・一七)(正大、一〇三四・二〇〇)
(谷大、外洋・九八〇)(京大、一・二〇・一
二)(帝國、三一九・一五九)

釋學經

①(日) Shaku-gak-kyō. (支)
Shih hsi-o-ching. ②一卷 ③缺 ④失譯

⑤(參考) 出三藏記第四、武周錄第一二、
開元錄第五、第一五、貞元錄第八、第二五

釋學鈔

①(日) Shaku-gaku-shō. ①
蓮生作 ②(參考) 淨土真宗教典第三

釋鑑稽古略續集 ①(日) Shaku-ken-
kei-ko-ryaku-zoku-shū. (支) Shih-chen-
chi-ku-hio-hsi-chi. 續稽古略 ②三卷

③存、大正四九・九〇三 No. 2038 正續二
六・二 ④幻輪編 ⑤明崇禎一一(A. D.
1638)

⑥本書は略名を續稽古略と云ふが如く、覺
岸の釋氏稽古略を繼承して元世祖至元々々
より筆を起し明熹宗天啓七年に至る三百六
十四年間の法苑事績を輯編し、僧四百三十
餘人を列傳して、佛祖源流法門の軌則並に
道脈を編年叙述したものである。即ち明崇
禎十一年大開幻輪之を彙編し、蕤菴居士較
梓して以て世に行るゝに至りし所である。

其の内容項目を明せば下の如し。(卷第一)
(一)元(一)世祖。(二)成宗。(三)武宗。(四)
仁宗。(五)英宗。(六)泰宗。(七)明宗。(八)
文宗。(九)寧宗。(十)順宗。(卷第二)(一)

明。(一)太祖。(卷第三)(二)建文帝。
(三)成祖。(四)仁宗。(五)宣宗。(六)英宗。
(七)景泰帝。(八)憲帝。(九)孝宗。(十)武
宗。(十一)世宗。(十二)穆宗。(十三)神宗。(十四)
光宗。(十五)熹宗。

⑥寛文三刊(帝國、八二・三九)(駒大、明治
四二刊)(駒大、刊本(龍大、二九三・一八)(正
大、一〇三一・三九) (紀氏隆眞)

釋義大綱 ①(日) Shaku-gi-tai-ko.
真宗教典釋義大綱 ②一卷 ③存 ④高松
悟峰述 ⑤大正三刊 ⑥(龍大、一二二・
六)

釋疑

①(日) Shaku-gi. ②一卷 ③存
④寫本(京大、藏・二四・一八)

釋疑篇

①(日) Shaku-gi-hen. ②一
卷 ③存 ④寫本(龍大、一五〇二・五六)

釋教門標目 ①(日) Shaku-kyō-
mon-hyō-moku. ②一册 ③存 ④哲
々・三・中・九)

釋教玉林和歌集 ①(日) Shaku-kyō-
-epoku-rin-wa-ka-shū. ②四卷 ③存
④辨惠集 ⑤明治一五刊 ⑥(谷大、宗小・
二六)(帝國、一五六・五八)

釋教御詠 ①(日) Shaku-kyō-go-ei.
②一卷 ③存 ④廣如撰 ⑤寫本(龍大、二
〇五四・七)

釋教孝鑑 ①(日) Shaku-kyō-tō-kan.
②六卷 ③存 ④順崇作 ⑤安永八(A. D.
1779) ⑥(參考) 淨土真宗教典第三

⑦安永九刊 ⑧(谷大、宗大・一七一一)
釋教三字經 ①(日) Shaku-kyō-san-
ji-kyō. (支) Shih-chiao-san-tzū-ching.

註釋教三字經 ②一卷 ③存 ④清代敏修
註 ⑤寫本(京大、藏・二四・一九)

釋教三十六人歌仙 ①(日) Shaku-
kyō-san-jū-jūroku-nin-ka-sen. ③存、國文
東方佛教叢書第八 ④榮海(弘安元一正平
二)(北朝貞和三) A. D. 1278-1347 撰 ⑤貞
和三(A. D. 1347)

⑥本書は藤原公任の三十六家選、刑部卿範
兼の後六々撰や、新三十六歌仙、女房三十
六歌仙の類に倣いて、歴代の勅選和歌集中
より禪家三十六人の和歌各一首を選して左
右に番ひたるものである。三十六人とは達
磨和尚、聖德太子、僧正善提婆羅門、大僧
正行基、傳教大師、弘法大師、慈覺大師、
智證大師、沙彌滿善、玄奘僧都、僧正遍照、
喜撰法師、僧正聖寶、素性法師、空世上人、
日藏上人、蟬丸、性空上人、少僧都源信、
惠慶法師。能因法師、良運法師、律師永觀、
登蓮法師、大僧正行尊、僧正永緣、俊惠法
師、道因法師、西行法師、僧正慈圓、二品
法親王守覺、法橋顯昭、寂蓮法師、寂然法
師、僧正行、明惠上人である。撰者榮海は
藤原俊業の子、慈覺院の僧正といふ、北朝
の貞和元年正月東寺長者となり、同三年八
月十六日寂す、壽七十、本書には見えない
が、一本の自序には貞和三年三月の記筆が
あり、また一本には律師永觀がなく、瞻
西上人が入つたのもあると圖書解題には記
してある。(中谷在禪)

釋教諸師製作目錄 ①(日) Shaku-
kyō-shō-shi-sei-saku-moku-roku. ②三卷
③存、大日本佛教全書佛教書籍目錄第二

⑥本目錄は諸宗諸師の述作書の目錄にして三卷より成り、第一第二の兩卷には六波羅蜜寺惠範撰集の眞言宗諸師製作目錄を收め、第三卷には圓超の五宗錄に多少の筆を加へて之を收む。第一第二の兩卷に收めらるる眞言宗諸師製作目錄中には、龍猛、龍智、金剛智、不空、善無畏、一行、慧果、弘法等の付法の八祖を始めとして、弘法大師の上足眞雅、實慧等より聖賢、益信、覺鑒等、小野、高野、東寺、廣澤、根嶺等諸流の祖師等五十四人の著述を人別に列舉せしものにして、就中、弘法大師に關しては、大日經釋二帖、法華十密號一卷、乃至鈞章夷進四卷等の章疏、論述、儀軌等二百十一部の書名を掲ぐ。而して、本錄の内容は謙順の諸宗章疏錄の序文中に「然則惠範錄宜設語、範師一時見聞之草藁、未下總制、多其訛謬亦宜矣」と指摘して居る如く、一時の見聞の草案に過ぎないので、可成りの杜撰の點を含んで居る。例へば、古來問題視せらるる釋摩訶衍論十卷を龍猛の著として何等の疑ひを挿まず、又弘法大師の著中に於ても玉造小町子形表記一卷、或は麗氣記十卷の如き、當然疑似部として取扱ふべきもの迄これを一樣に輯録せる如きその一例である。第三卷は前述の如く、圓超の五宗錄に少しく加筆を施せるものにして、即ち華嚴宗に於ては圓超の勅進錄中に重要な地位を占むる法藏、元曉の二人に就て個人目錄を作り、天台宗章疏に於ては玄日の勅進錄中の南岳、天台等の述作を整理して個人著作目錄を製して附加して居る。

然し、本錄に依て附加せられた個人著作目錄は頗る杜撰のものであつて、勅進錄中に既に存せるものを脱し、或は自意を以て新に挿入し、或は書名に通せざるが爲に過去に陷れる如き誤りが隨處に犯されて居る。例へば、圓超錄中の賢首大師法藏の名著、華嚴五教章三卷が華嚴教分記の名稱を用ひ存するが爲に、賢首個人目錄中より逸脱せしめしが如き、又淨影寺慧遠の著述中、華嚴又は因明の部に編入すべきものを、三論宗章疏に編入して氣付かざるが如きがそれである。尤も、圓超錄そのものにも誤記があつて、教分記三卷を杜順の著なりと斷定し（夾註）華嚴宗章疏を百八十二部七百八十四卷と記し居れども、實数は百八十七部七百九十二卷（卷数を記せざる數部の卷数を控除せり）となつて居る點に徴すると、原本となりし圓超錄の寫誤脱逸に災ひされた間違ひも尠くないであらう。要するに本錄は諸宗章疏錄の著書謾順が「世有釋教錄者兩卷上、洞難圓超五宗錄、暨惠範祖師製作錄、以爲一部、重出繁多、牀上架牀、寫誤非一」と云へる如く、五宗錄と六波羅蜜寺惠範の製作錄とを合して作つたものであつて、未だ推敲を経ない未定稿のものたるを免れない。

以後に求むべく、又本書は寛文七年（A. D. 1667）に出版されて居る事實に依てその成立最下年限時を爰に定むることが出来る。

⑦寛文七刊 ⑧（高）大・一・二四、寄・一・二〇（龍）大・二〇三・四二（帝國）一・九八・二一四（京）大・一・二〇・小（林屋友次郎）

釋教諸宗錄 ①（日）Shak-kyō-shō-shū-roku. ②一卷 ③存 ④大村西崖（明治元一昭和）A. D. 1860—1922、鹽澤觀山著 ⑤明治二九刊 ⑥（帝國）一・八・七〇（九）

釋教正謬 ①（日）Shak-kyō-shō-myu. ②二卷 ③存 ④艾約瑟迪、三眼居士譯 ⑤同治五刊（谷）大・外大・一二六（哲）外・一・右・一一（龍）大・二八四・一二（同治）七刊（帝國）六・五・一三〇（京）大・一・二〇・二・一六

釋教正謬曝斥 ①（日）Shak-kyō-shō-myu-faku-shaku. ②二卷 ③存 ④南溪（天明三—明治六）A. D. 1783—1873、寫本（龍）大・二八四・一四

釋教正謬再破 ①（日）Shak-kyō-shō-myu-sai-ha. ②二卷 ③存 ④養鶴徹定（文化一一—明治二四）A. D. 1814—1891、述

明治六刊 ①（京）大・一・二〇・一五

釋教正謬再破批 ①（日）Shak-kyō-shō-myu-sai-ha-hi. ③存、行誠上人全集之内 ④福田行誠（文化三—明治二一）A. D. 1806—1883、述

釋教正謬初破 ①（日）Shak-kyō-shō-myu-shō-ha. ②二卷 ③存、日本思想圖評史料第一〇 ④養鶴徹定（文化一一—明

治二四）A. D. 1814—1891、述 ⑤明治元刊 ⑥（龍）大・二八四・一五、研史（正）大・一〇九・四一（八七）

釋教正謬辨駁 ①（日）Shak-kyō-shō-myu-ben-baku. ③存 ④南條神興（文化一一—明治二〇）A. D. 1814—1887、述 ⑤寫本（谷）大

釋教題林 ①（日）Shak-kyō-dai-rin. ②八卷（卷一・六缺）③存 ④淨惠集 ⑤元祿八（A. D. 1695）⑥寶曆九刊 ⑦（高）大・寄・一・二四（京）大・佛・四・二八（正）大・一〇九・二二（一）

釋教題林和歌集 ①（日）Shak-kyō-dai-rin-wa-ka-shū. ②說教必要釋教題林和歌集 ③八卷 ④存 明治一四刊 ⑤（龍）大

釋教百偈集 ①（日）Shak-kyō-hyakugoe-shū. ②一卷 ③存 ④鹽澤觀山集 ⑤明治三〇刊 ⑥（正）大・一〇七・一七〇

釋教百首 ①（日）Shak-kyō-hyakushū. ②一卷 ③存、國文東方佛教叢書第八、行誠上人全集之内 ④福田行誠（文化三—明治二一）A. D. 1806—1883、撰

⑤本書は、福田行誠の釋教の題詠一百首であり、その遺稿である。著作年代は不明なるも「戊戌とし三條山を辭職して深川の本誓寺にうつりける時」の詞書、及び「あの年の秋傳法復古かきけるおくに、うらみなき秋を昔にふきかへせ眞寔がはらをわたる秋風」等より見て、行誠の本誓寺に隠棲したのが明治十九年三月であり、京都知恩院に住したのが明治二十年四月であるから、